

H20年度 No.3
第286号
2008年 September

家保通信

発行／大分家畜保健衛生所・豊後大野家畜保健衛生所・玖珠家畜保健衛生所・宇佐家畜保健衛生所

- ワクモの被害と対策について 1
- 乳房炎について 2~3
- 家畜の暑熱対策について 4

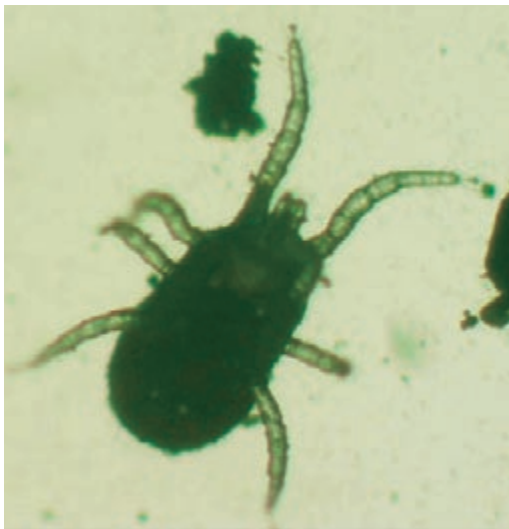
ワクモの被害と対策について

ワクモとは…

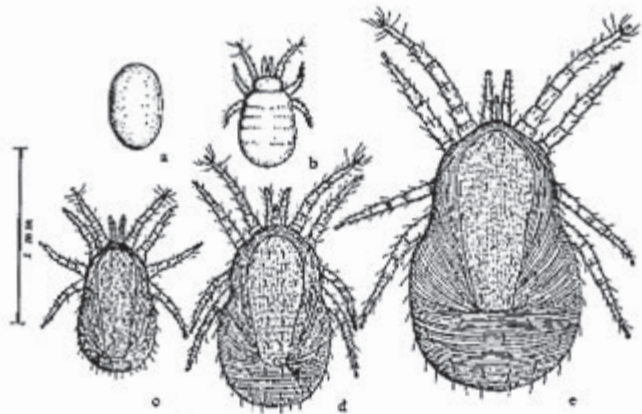
ワクモとは鶏を吸血する寄生虫でありダニ目に属します。トリサシダニとともに養鶏業界に多大な被害を与えています。一昔前まではトリサシダニの被害が大半でしたが環境変化に比較的強いワクモが近年生息域を拡大し、沖縄県を除く全国に浸潤（寄生）しています。

ワクモの生態

大半は夜間に鶏へ移動して、頭部や頸部を好んで吸血します。30分から1時間半ほど吸血して隠れ家（生息場所）に戻ります。隠れ家はケージのつなぎ目、餌箱、水樋、卵うけ、機械の隙間や陰、止まり木、ネストの割れ目や裂け目等であり、重度汚染している場合は鶏舎の至る所で観察されます。活動は外気温により左右され、25℃前後では吸血活動を行いますが一3℃の低温では吸血活動を休止します。しかしながら、最近の研究では昼間でも吸血することがわかっています。特に高度感染鶏舎においてはその傾向が強いようです。寿命は約3ヵ月ですが無吸血でも9ヵ月生存しているものもいます。一般的に春から秋にかけて盛んに繁殖し冬場は不活発となりますが、空調完備された施設（ウインドウレス鶏舎等）では生活環境が良くなり、年間を通じて繁殖活動を繰り返します。高温に弱く65℃以上では瞬時に死亡します。なお、トリサシダニはワクモに比べて小型で鶏の肛門周囲を好み鶏から離れることはほとんどなく環境変化に比較的弱いダニです。



ワクモ



ワクモの各発育期
a…卵 b…幼ダニ c…飽血第一若ダニ d…飽血第二若ダニ e…飽血雌成ダニ

国内における浸潤状況

平成19年度に千葉県畜産総合研究センターが国内飼養戸数の約11%にあたる農場を対象にした調査では、ワクモの浸潤率はレイヤー農場で85%、レイヤー種鶏農場で56%、ブロイラー農場で0.6%、ブロイラー種鶏農場で29%でした。また、飼養羽数には関係なく小規模農場から大規模農場において広く浸潤が確認されています。

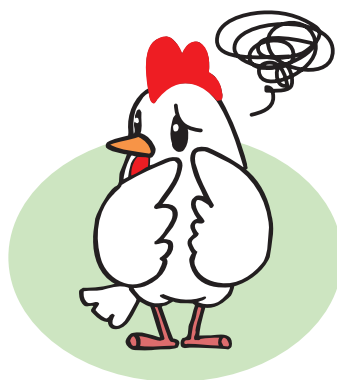
吸血等による被害

吸血による貧血や吸血ストレスによる飼料摂取量の減少と産卵率の低下(10%前後)、卵重の減少、重度寄生(数万~10万匹/羽)により一晩で貧血に起因する死亡例もあります。また、ワクモの生体や死骸、排せつ物、吸血した血液が卵に付着して汚卵が発生し、出荷先からの苦情・クレーム等が発生することもあります。さらに、従事者がワクモに刺され痒みを伴う発疹や皮膚炎、アレルギー症状を起こすなどの被害も報告されています。

ワクモの駆除

ワクモの駆除には今のところ殺虫剤が最も効果的です。市販の殺虫剤ではカルバリル、トリクロロホン、フェントロチオンなどが有効ですが、一部薬剤に対する抵抗性も見られます。また、同一薬剤の長期連続使用は抵抗力を持たせる原因になります。このため、薬剤使用量に注意し、定期的に薬剤の種類を切り替えるとともに、投薬記録の徹底を行って下さい。薬剤以外の駆除方法としては出荷後の空舎となった鶏舎をスチームクリーナーで65℃以上の高温水洗浄を行ったり、火炎バーナーでゲージなどの金属部分を焼いたりする方法が効果的です。最後に、ワクモを侵入させないことが大原則になりますので、初生雛の導入、移動カゴの消毒、出入りする人の衣服や靴の交換などを励行することが肝要となります。

ワクモの寄生



乳房炎について

乳牛における乳房炎は発生が多く、酪農業に甚大な被害をもたらす疾病です。この発症には多くの誘因がありますが、直接的な原因と考えられるのが病原菌によるものです。乳房炎の原因となる病原菌は種々あり、「伝染性病原菌」と「環境性病原菌」とに分類する方法があります。その主な菌名・特徴・侵入経路及びそれらの感染原因について理解し、対策を実施するようお願いいたします。



	伝染性病原菌	環境性病原菌
菌名	<ul style="list-style-type: none"> ・黄色ブドウ球菌 ・無乳性レンサ球菌 	<ul style="list-style-type: none"> ・大腸菌 ・緑膿菌 ・乳房レンサ球菌 ・クレブシエラ
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・保菌場所は乳房 ・分房から分房、牛から牛へ伝播 ・搾乳時に多く伝播 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境周囲常在菌が原因 ・糞尿等に汚染された敷料が感染源 ・汚染時期は搾乳と搾乳の間
侵入経路	<ul style="list-style-type: none"> ・乳頭口、乳頭管損傷で増殖した菌が牛の寝起きの際等の乳の流れで乳腺に侵入 ・搾乳中、急激なクロー内圧が低下した時のドロップレッツ現象により乳房に侵入 	

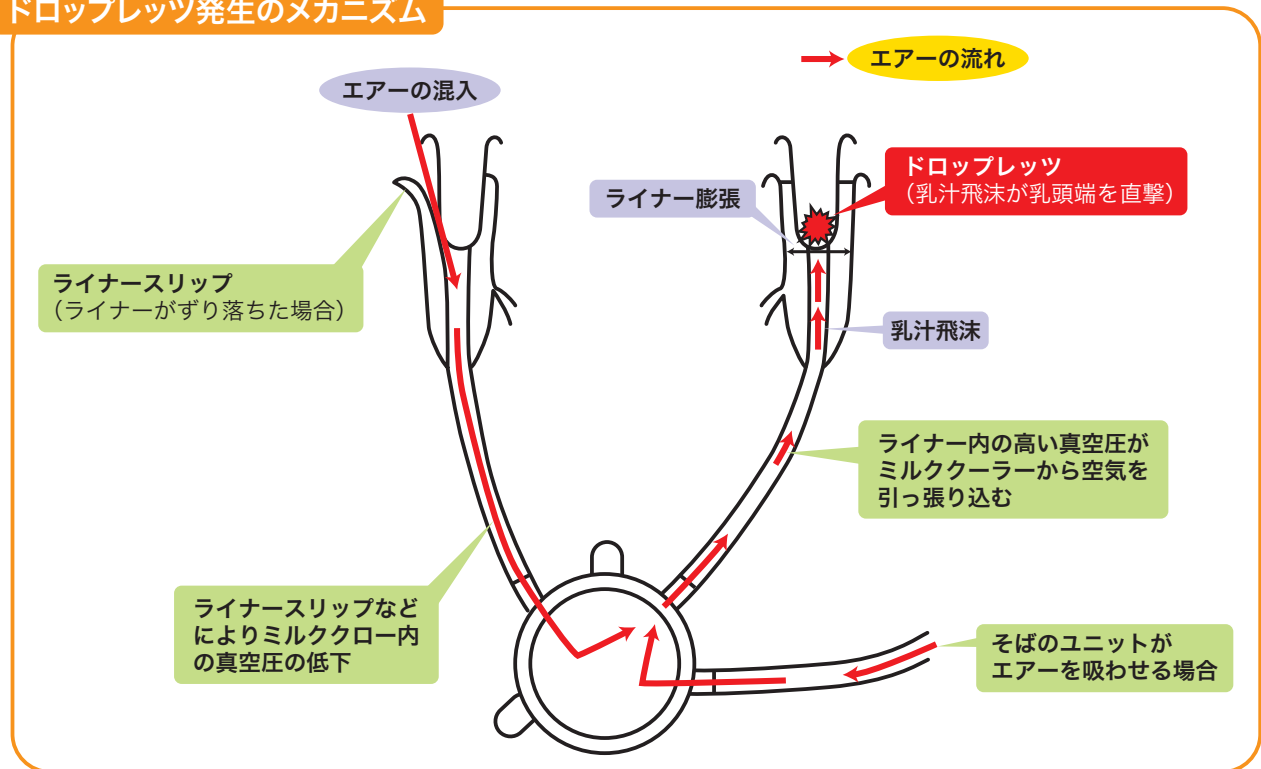
※ドロップレッツ現象とは搾乳中急激なクロー内圧低下によりクロー内の牛乳が霧状になり、乳頭口を貫いて乳房内奥まで達することです。

細菌感染の原因

(1) ドロップレッツ現象 (搾乳終了頃に起こると細菌が乳房内に留まり増殖します)

- ・ライナースリップが起きた時 (乳頭表面・ライナーゴム内側の湿潤、クロー内圧の低下によるライナーの脱落によるもの)
- ・ユニット装着時のエアの吸い込み時
- ・ライナー離脱時、ユニット内の陰圧が残っている状態でユニットを引張って外した時
- ・残乳がある時等でライナー4本同時に離脱しない時

ドロップレッツ発生メカニズム



(2) 乳頭口損傷

- ・クローの水平方向のねじれ：乳頭がねじれによる過搾乳により、乳頭狭窄となります。
- ・ミルク装着時間：泌乳ホルモンは前搾りから5分間程度しか持続しないため、それ以上の装着は過搾乳となります。
- ・パルセーターの不備：パルセーターは乳頭のうっ血・浮腫を防ぐため常に脈動数の確認が必要となります。
- ・ライナーゴムの弾力性低下：乳頭のマッサージ不足につながります。
- ・乳頭を踏むなどの損傷

(3) 環境衛生の不備

- 牛体(特に後肢)、乳房乳頭の汚れ：牛床の湿潤、換気・毛刈の不備
- 搾乳者の手：不浸透性手袋の不着用



家畜の暑熱対策について

ここ数年、夏場の猛暑が問題となっており、今夏の気温も平年より高くなっています。朝晩は涼しくなりましたがまだまだ日中の気温は高くなりますので、被害を未然に防ぐために以下の点について再度確認をお願いします。

1. 舎飼家畜

- ① 畜舎の窓・戸を開放するなどして、換気・通風に注意して下さい。
- ② 換気扇・扇風機・ポリダクト等の送風・通風器具がある場合にはそれらを使用し、家畜の体感温度の低下に努めて下さい。牛が生活している周辺での空気の流れが重要です。
- ③ 畜舎内外に散水・放水を行って下さい。
- ④ 良質の飼料・主要なミネラルを与え、健康な状態を維持して下さい。
- ⑤ 暑熱期の牛では呼吸による水分放出や発汗も活発になるため、新鮮な水を常に十分飲水できるようにして下さい。粗飼料の採食促進にも効果的です。
- ⑥ パドック等には、日よけ(日蔭・木立等)を設け、牛に直射日光が当たるのを防いで下さい。日光照射により飼料の発熱・変敗が助長されると採食意欲が削がれます。
- ⑦ 体表面からの放熱が不十分となるので、密飼いを避けて下さい。
- ⑧ 行動をよく監視し、異常畜の早期発見・早期治療に努めて下さい。
- ⑨ 畜舎の屋根裏にシートや発泡スチロール等を設置したり、屋根への石灰散布や散水、軒下への寒冷砂の設置等を行い畜舎内温度の低下に努めて下さい。
- ⑩ 早朝や夜間等、比較的気温が下がっている時刻に給餌をするようにして下さい。

2. 放牧家畜

- ① 日中放牧するときには、日蔭林のある牧区を使うか、できるだけ涼しい時間帯に行うようにして下さい。
- ② 新鮮な水を常に十分飲水できるようにして下さい。
- ③ 併給飼料、主要なミネラルを与え、健康な状態を維持して下さい。
- ④ 行動をよく監視し、異常畜の早期発見・早期治療に努めて下さい。

暑熱とは、気温の上昇・日射・風などが組み合わされて引き起こされ、直接的には家畜の体温の上昇として現れます。暑熱によるストレスから繁殖障害が多発したり、下痢・発育遅延等さまざまな疾病が発生し、死亡する場合があります。温度・湿度等の管理だけでなく、飼料給与、畜舎環境の改善も含めて暑熱対策に取り組ましましょう。

家畜の病気等についての情報やご相談は

大分家畜保健衛生所	〒870-1153	大分市大字小野鶴字原442	☎ 097-541-5241
豊後大野家畜保健衛生所	〒879-7131	豊後大野市三重町市場1123	☎ 0974-22-0179
玖珠家畜保健衛生所	〒879-4414	玖珠郡玖珠町大字大隈1038-1	☎ 0973-72-0313
宇佐家畜保健衛生所	〒879-1135	宇佐市大字和気1290番地	☎ 0978-37-0473